

# 別の顔



after

感じに魅力を感じ、続けることにしました。高校生になってからは本格的に練習を始め、昨年3月には京都府で開催された駅伝大会に鹿児島県のチームで出場。大会への参加は初めてでしたが2.4kmの区間を走り切ることができました。競技用車椅子は、日常生活用のものとは違ってとてもスピード

串良商業高校  
くろきひろたか  
**黒木 寛高**さん(2年生)



学校で受験した資格は全て1発合格しており、8つの資格を所有。昨年11月に鹿児島県高校家庭クラブ連盟の代表に就任し、県代表として活発な活動をしていきたいと話す。

が出るため、普段は感じられない疾走感があり楽しいです。現在、採寸を行いオーダーメイドの車椅子を発注中。今後は、長距離だけでなく100mなどの短距離にも挑戦したいと考えており、来年度に佐賀県で行われる全国障害者スポーツ大会への出場に向けて鍛錬を重ねていきます。



中学2年生の頃に、父の知り合いから車椅子マラソンをやってみないかと勧められました。あまり興味はありませんでしたが、何事も挑戦だと思いチャレンジ。体を動かすことやスピード



school

昔、度尾で起きた出来事にクローズアップ!



## タイム トラベル

~温故写新~

22話

### 運命的に甦った零戦



零式艦上戦闘機、通称「零戦」。昭和15年に正式採用され、その年が神武天皇即位紀元2600年に当たることから下2桁を取って「零式」を冠することとなった旧日本海軍の戦闘機です。零戦は長大な航続距離、重武装、優れた機動性による高い空戦能力を備える一方、軽量化による機体の脆弱性や低い防弾性が弱点となり、大戦中期以降は新鋭戦闘機に対して劣勢を強いられながらも、主力戦闘機として終戦まで使われました。そんな零戦の残骸が、平成4年3月に垂水市まさかり海岸で、2機目が同年10月に加世田の吹上浜で漁船の網にかかり引



▲自衛隊の整備員有志や航空機メーカーの尽力のもと、機体以外にも展示用のエンジンや機銃なども復元された

き上げられました。当時は、老朽化していた鹿屋航空基地史料館の建て替え準備が進行中。着工直前に計画を変更し、引き揚げられた零戦2機を1機に合わせ復元して史料館に展示することになりました。しかし50年もの長い間、海中で眠っていた機体は損耗が激しく、復元を行うにも外部に委託する予算はありません。そこで復元作業を希望する自衛隊員を募り、勤務時間外にボランティアで作業を実施。三菱重工業株式会社小牧南工場の協力もあり、平成5年7月7日に復元が完了し、新史料館の2階に搬入されました。偶然にも、鹿児島の海から半年で2機の残骸が引き上げられ、新史料館の建設が重なり復元・展示される。なんとも運命的な甦りを見せた名機・零戦は、史料館の2階で今もその雄姿を伝えています。